

## ローマ人の手紙 メモ

○パウロの神学の最高峰

○A.D.57 3 回目の伝道旅行のギリシャ滞在の時（使徒の働き 20:3）に書かれたとの説が有力。

○受取人は、まだ訪れたことのないローマの教会の人々。（使徒 1:10-12）

→多数の異邦人と少数の影響のあるユダヤ人

### <キリスト教の歴史を1文で揺り動かすインパクトを持つ手紙>

○ローマ 13:13

「遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活でなく、昼間らしい正しい生き方をしようではありませんか。」

自堕落な生活をしていたアウグスティヌスは、ある日父からこの聖句を渡され、彼は神学者としての道を智から強く歩みだす。

アウグスティヌス (A.D.354-430)

・キリスト教がローマ帝国の国教となった時代の神学者、哲学者、教父、説教者

・彼が三位一体論を確立。 また多くのキリスト教の根本となる神学を確立。

→つまり、今ある正統なキリスト教神学を確立し、カトリック神学を立ち上げた人。

⇒ローマ 13:13 という 1 つの聖句がカトリックを、キリスト教神学を生み出す!!

○ローマ 1:17b 「義人は信仰によって生きる」

当時、もっとも敬虔で勤勉な修道士として有名だったマルティン・ルター(A.D.1483-1546)

彼は 1 日 15~18 時間以上の厳格な献身と学びの修道士としての生活の中で、これだけで、本当に神の前に正しいもの（義）となるのだろうか？との渇きが常にあった。そのためより厳しくより厳しくと自分を律していた。ある日、彼にとって読み慣れ、完全に暗記しているローマの手紙のこの一文が彼の霊に迫ってきた。ただイエスを信じるだけで人は神の前で 100%正しいものとされる。人の努力の行いで、それは勝ち取れない。!! それに気づき、彼は宗教改革を起し始める。そしてプロテスタントが生まれる。

⇒ローマ 13:13 という 1 つの聖句がプロテスタントを生む。